

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念と別にホームないの理念を職員で話し合い、決定しその内容に地域密着サービスとしての理念を取り入れている。	○	入所様の自宅付近へのドライブ当を含め、家人様だけに限らず近所の人々とふれあう機会の提案、ホーム付近の人々とふれあい入所様の地域の中での暮らしを大切にしたい。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、理念を大切に共有する為、地域やご家族様との情報等も共有しこと細かい事も話し合うようにしている。	○	今後も、もっと日々の取り組みについて常に管理者との話し合いを大切にしてい、入所様が充実した生活を送って頂けるようなホームに向けていきたい。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切に理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご面会者様、ご家族様にも分かりやすいように玄関へ掲示している。	○	現状では、ホームに訪問して来た方々を中心とした理念の浸透で止まっている気がするので、もっと地域の人々にホームの事を理解して頂けるようにしたい。
2. 地域との支えあい				
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	開設当初より、近隣近所の人々に少しでも多く声をかけて頂ける様に職員側からの挨拶を心がけている。	○	少しずつ声を掛けて頂ける様になりつつあるも、まだ気軽に立ち寄って頂けるような日常的な付き合いが無い為にもっと交流する機会を増やしていけたらと思う。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内の保育園や小中学校との交流は継続しているが、自治会や老人会等での交流は無いに等しい。ホーム内の行事へのボランティア参加はある。	○	町内当の老人会のボランティア参加の機会を大切にして、入所様が一つでも多く地域の行事や活動へ参加していきたい。又それに向けて職員も一丸となって支援していけたらと思う。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	現状、入所者様の支援方法に対しての対応のみで、事業所の力を活かした地域貢献へはまだほど遠いと思われる。	○	職員の知識・意識と共に、介護力の向上に努めホーム内に限らず地域への社会貢献へつながっていかれたらと思う。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価から職員全員で取り組み、実施する意義を理解し、評価後もミーティング等で具体的な改善へ向け話し合いの機会を持っている。	○	具体的な改善へ向け話し合った内容を職員はきちんと理解し今後へ生かしていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2カ月に一度、継続開催している。しかし会議での意見がサービス向上に活かされたり、対応されるまでに時間がかかっている。	○	会議での意見を大切に、迅速に対応していけるようにしたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議における町担当者との関わりや介護相談員の来苑時に情報交換を行い連携に努めている	○	職員側の知識も向上させ、更なるレベルアップを図るよう、職員側からも質問を投げかけアドバイスを頂く。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会において、権利擁護や成年後見制度について学ぶ機会があるが、事例はない。	○	研修後、スタッフへの伝達などを通じて多くの職員が理解できる様に努めていく。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に関して、ミーティングでの職員間で意見交換をしたり、プリント配布をして防止に努めている。	○	今後も、高齢者虐待防止関連法に対し、職員全員が個々で興味関心を持ち続けて行き、安全なホームを目指していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	○	ご家族様や見学者様に対しても、不安や疑問に対応を職員全員が同じになるように研修が必要と思われる。
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	利用者様の意見・不満、苦情等があった場合、認知症があり話し合いの内容に現実との違いがあったとしても、大事な意見として慎重に対応していきたい。
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	○	職員の異動等に対しては、統一した報告が行えているが、金銭の報告に対しては、希望があった家族様に限られている為、統一をした報告をしていくようにしたい。
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	ホーム内の環境作りや、利用者様の対応方法を家族様の立場や目線に立って対応していれるように努めたい。
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	○	現在、管理者が1人でも意見を言った場合は、他の職員の意見も個別に聞いた上で話を進めている。
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	○	利用者様の意見・不満、苦情等があった場合、認知症があり話し合いの内容に現実との違いがあったとしても、大事な意見として慎重に対応していきたい。生活の流れに合った上の職員の確保になっているのが検討すべき点があると思われる。
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	○	相互研修をH20年より毎月実施しており、ホームから出向したり他のホームから来てもらったり今後も継続で実施できると思う。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な法人内研修の他当ホームにおいて月間研修計画を立案し、順番に全職員の研修参加を実施している研修は、ミーティングを設けて報告伝達し意見を聞いている。	○ 他の研修により違う環境で働き、主に介護技術や新たな知識を学び身に付ける事ができていると思う。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会が主催となって年一回の相互研修会や、外部研修へ参加する事で同業者とのネットワーク作りに取り組んでいる。	○ 研修会等通じて、同業者との関係を大切にし連絡情報を取り、相互訪問で発展向上心が出来れば良いと思う。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員同士が抱える悩みを気兼ねなく話せる環境である事を目指している、又職員同士の親睦会による食事会を設けて、思っていることを話し合う事で軽減になっている。	○ 職員の気分転換できる休憩場所があればストレス軽減になり新に仕事に打ち込めると思う。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	定例ミーティング等を通じ運営者と職員が話し合い意見を述べ運営者から管理者職員へのアドバイスを促し向上を目指す機会となっている。	○ 職員は利用者さんへ対する想いと信頼を強く持ってもらうように、更なるケアを行って介護技術や知識を高める事が出来ればと思っている。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用に至るまでは、ホーム管理者・ケアマネ、併設施設の生活相談員とで本人様の所へ出向きアセスメントを実施する他、本人様が納得できるように信頼関係を努めている。	○ 利用者様の心の負担を取り除くように支援し穏やかな生活が出来るように努めている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家人様の相談に親身になって受止めて不安を取り除く努力をしている。	○ 情報交換を行い日ごろの支援内容等に耳を傾けるようにしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談や内容に対し、ホーム内において回答が出来る範囲で伝え、ホーム内の職員では不明な件であれば系列施設の相談員へ連絡を取り対応している。	○	多くの職員は相談援助技術を学んでいない、今後知識を身につけ系列施設との連携を図りホーム職員が学んでいかなければならない。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	新規申し込みの方にはホーム内の見学を含め案内説明を行い、サービスについて理解をして頂けるよう努めている。	○	安心して納得して頂けるまで、相談を受けるように努力している。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者様と共に過ごし学び支えあう姿勢を心がけている。	○	系列施設とのミーティングなどの場においても、利用者様がいての私たちである事を全職員再認識している。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時や緊急連絡で電話をしたりした折には必要な件だけではなく、家族様と話す時間を設けるように心掛けている。	○	家族様の参加行事を増やし、家族様の負担にならないよう気軽に訪問できるホームにしていきたいと思っている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	認知症で進行中の利用者さまとの関係を重んじ関係を大切にしよりよい関係が継続できるよう努めている。	○	利用者様の状況等、家族様へ事細かく解りやすい説明で理解して頂くようにしている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きたい場所に以前から馴染み親しんでいる人との関係を重んじて継続に努めている。	○	家族様の協力もえて、自宅近所の方達との交流も馴染み深い訪問等が増えていくように支援していきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者様個々の性格を把握し、相性に考慮し和を保つよう心がけている。	○	利用者様同士の相性や性格がある為に和を保てるよう努力している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	併用施設へ転所となったり病院へ入院になったりで離設された利用者様にも面会や訪問等で関係を継続している。	○	穏やかに話を聞き入れたり面会、訪問支援してきている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の方やご家族様の意見を聞きながらその都度対応している。	○	利用者一人一人食事制限があったり、体重増加予防に利用者様の意見を聞きながら考えていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	把握できている方もおられるが、本人様に以前やっていた事を聞きながら、取り入れるようにしたい。	○	利用者の方と一緒にやったこと(望む暮らし)が出来るようにしたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者の方に合った過ごし方を職員同士で話し合いながら、考えていきたいと思えます。	○	暮らしの視点が利用者様を中心になるようにスタッフ一同心がけていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者様の意見やご家族様の意見を取り入れながら介護計画を作成している。	○	合って話が出来ない場合は連絡し、意見を聞いている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画で設定した期間での見直し、新たな作成は行っていたが、変化に伴う計画の変更が不十分で月一回は実施記録字、計画変更の必要性を確認し、必要であれば、見直しや変化に追いついていない状況です。	○	介護計画と実際の介護の連動性に着目しなければいけない。介護計画にかんして事業所内の学習や今後研修などに参加し介護計画の必要性を認識しながら計画作成などに取り組む。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にその日の記録や様子など変わったことがあれば書いて、スタッフ同士で共有する。	○	申し送りや記録漏れなどが無いように確認しながら、伝えていきたいと思います。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	当ホーム同法人と特養ホーム・居宅介護支援事業所や系列の老人保健施設病院と連絡を取り協力し、支えて頂いている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ホーム近くに警察と消防が有り連絡体制を整えている、近所の方の(ボランティア)も受け入れたり役場・老人クラブとも連絡をとり協力している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者(一人一人)の状況、要望に応じて同法人、系列施設とまずは連携を取り合い必要と思われるサービスへとつながるように支援を行っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	併設の居宅介護支援事業所の連携が中心になりがちで、地域包括支援センターとの関わりがなかなか取れていないのが現状である。	○	利用者様の意向や必要性に応じて地域包括支援センターと連絡が取れるように常に接していきたいです。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近くの医療機関で受診や往診しているが本人さんや家族様の希望に応じて他の医療機関でも受信出来るような体制を整えている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	当ホームには看護職員が居ない為、健康管理の面で不安を抱えている、現状もあり併設病院の看護師にも指導を頂いている。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	利用者が入院された際職員が自主的にお見舞いとして入院先へ行っており、その際病院関係者との情報交換をしているがこれからも続けていきたいと考えている。
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	重度化や終末期への対応については、内外での研修等に参加していき、スタッフ一同ケアの向上へとつなげる様にしたい。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	何時利用者様の健康状態が変化するか分からないのですので対応できるように、主治医との連携を中心に体制を整えておきたいと考えている。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	○	今後本人様が安心して生活していただける様な話し合いやサポートをつづけて行きたい思います。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	法人策定の個人情報保護マニュアルを基に記録等の取り扱いに注意を払っている。プライバシーに関しては、利用者様の心を傷つけるような対応や声掛けをしないよう心がけていきます。	○ 利用者様は私達の人生の先輩でもあり常に尊敬の気持ちを持って日々の仕事を行って行きたいと思えます。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常生活の中で利用者様との関わりをしっかりと希望など聞くようにしている、希望をあらわすのが困難な肩においても日々の表情などから、受止められるように努めています。	○ 担当者ごとに、利用者様一人一人の思いや希望をしっかり受止められる体制が作っていければ良いホームにしているのではないかと考えています。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様より希望があれば外出支援を行っているが、一定の人の支援に偏りがちになってしまっている。	○ 自分から希望が言えない方に対してもスタッフが声かけを行い一定の人だけではなく、皆様に同じようなケアが行っていければと思います。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	現時点では併設されている特養へ月一回散髪を利用されている方が殆んどですが髪型など本人様の希望に沿って切ってもらっています。	○ 行きつけて美容室になるべく多くの人に行っていただける様に努力していきたいと考えています。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と一緒に準備や食事、片付けをしている	併設施設の厨房より毎食届く為に盛り付けや時々行う調理で利用者様と共に行うようにしている、片付けは殆んどが職員が中心となっているのが現状である。	○ 現在月一回の調理レク毎週日曜日の味噌汁作りや畑で取れた野菜での調理と包丁等を持つ機会が少ないので、増やせたらと思う。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者様皆様が嗜好の支援を全て受けるわけではないが、食事や当分制限に配慮し利用者様と共に考えて支援している。	○ 利用者様の要望にしっかりと耳を傾け現状に合わせて楽しんで頂ける事を一番に考えた支援を行いたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	出来る限り誘導で排泄して頂けるように声かけを行い、職員同士で情報を共有し介護計画書作成の段階でも把握に努めている。	○	水分、排泄チェック表にて日々の状況、情報収集に努めている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日・回数は職員側が決められているのが現状だが、利用者の要望等に耳を傾けて、入浴を楽しんで頂けるように努めている。	○	利用者様の要望にしっかりと耳を傾け現状に合わせて楽しんで頂ける事を一番に考えた支援を行いたい。応じ時間に配慮したり、夜間浴を取り入れるなどしている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日常生活内容を工夫したり利用者様の状況で入眠時間等を工夫している。日中に日光浴を出来る限り参加して頂き軽作業等をして頂くようにしている。	○	出来る限り、眠前薬等に頼らず自然入眠を促せるような支援を行いたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常生活の中で役割等の場面を作り出し職員と一緒に行動することで生活の張り合いを支援している	○	もっと多くの利用者様の生活歴を知り個々の支援につなげていけたらと思う。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様と相談し保管はホーム側で行っている、外出時の買い物等では利用者様本人が支払い動作等が行えるように見守り支援を行っている。	○	週二回の訪問パン屋さんでの買い物や近くのスーパー等での買い物へ積極的に出かけ、品物を選ぶことから支払いまでの支援を継続したい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人様の要望をその都度対応している。近くのスーパーであったり自宅であったりと希望を声して頂くよう努めている。	○	現在要望を言える利用者様への支援にかたよっているため、会話の中から行きたいところが分かれるような支援を行いたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	日常の会話の中で思い出の場所や季節に応じた場所へバス等での外出支援を行っている。	○	まだまだ大きな目的を持った外出計画が少ないので、楽しみの目的を含めた外出支援を増やしたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	食堂へ公衆電話の設置をし何時でもしようして頂けるようにしたり、要望があれば手紙の代筆や電話を掛ける支援を行っている。	○	手紙の代筆等は減少しつつあるが現状なので、家人様等に手紙を書く支援等を検討していきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会者に対して職員側から声かけをしっかりと行いいつでもきがるに訪問していただける様に支援している。	○	行事などにご家族の参加の機会を増やしボランティアや地域交流を積極的に取り入れ、気軽に訪問していただけるよう、働きかけていきたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修や内部研修の中で勉強の機会を与え常にケアを考える上で頭に入れて取り組んでいる	○	外部研修内部研修で学んだ事をもっと詳しく全体ミーティング等で勉強していきたいと考えます。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は安全の為に施錠をしているが日中は正門共に開放しており自由に出入り可能となっている。居室入り口の施錠は昼夜共に行っていない。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は日課への案内、言葉かけ掃除届け物当の為、夜間は状態確認の為適度に訪室している。ホーム内だけではなく畑仕事苑外の散歩をされる方もおられ、見守り付き添いにより安全への配慮をしている。	○	
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁・塩素系漂白剤など多くの人が使用する物に関して職員が確認管理を行い各個人で使用されているものに関しては、言葉かけにより安全を呼びかけた上でなるべく本人管理をするようにしている。	○	居室の洗面台など、利用者様の状態に応じた物を置くように取り組んでいる。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	参考書を読んだり職員ミーティングにより事故防止へ向け学んだり話し合いを行っている。利用者様一人一人の状態に応じた対応。主に危険予測の面で改善が必要だと思う。	○	事故発生後再発の面では取り組みが出来ていると思うが、予防策の面では、今後も取り組みが必要と感じる。事例検討など増やしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	併設の病院との連携により緊急時は主治医指示の下対応を行っている。職員研修により応急手当初期対応等学機会があるが定期的ではないのが現状です。	○	急変時対応マニュアルを基に各利用者様の担当職員が起こりうる危険について学ぶ機会をもったが、今後も全ての職員が対応できるように訓練など取り組んでいきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年二回の避難訓練実施の他法人での緊急時応援体制・連絡体制・があり又スタッフルームの災害時対応に関する指示を行っている。	○	洪水予報・土砂災害警戒警報発令時への対応、訓練を実施している。地域の人々の協力も得られるよう働きかけも行っていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	サービス担当者会議の場を主にリスクについて面会時間などでも家族様と話し合いを行い利用者様自身の思いや現状を踏まえて対応を行っている。	○	家族様への説明話し合いを行うに当たりまずは、職員が利用者様に起こりうるリスクをとらえ認識しておかなければならない。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日常の関わり、様子観察の他利用者様自身からの訴えにより体調変化に気がついた際は併設病院に相談の他介護日誌へ記入し対応。情報の共有に努めている。	○	小さな変化にもきずき当事者職員より情報が発せられることは多いが全職員への共有に至らない事があり情報管理・伝達をきちんと行っていきたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院へスリの処方依頼を行う際は処方箋を確認し受診(往診)字には職員が付き添い服薬に関する指導を一緒に受けている。服薬による症状変化の確認結果等記録伝達し、服薬支援、理解に努めている。	○	併設病院協力の下服薬確認も以前より徹底して行われるようになってきたが、今後も服薬支援に際し、全職員の把握共有化を行って行きたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	朝食時の牛乳を冷たいものにしたり、個人的にカスピ海ヨーグルトを作るなど、摂取めんでの工夫がなされている毎日の散歩、外気浴、体操により身体を動かす機会を作るなど取り組みをしている。	○	予防や対応を行うも便秘が見られないときは座薬、浣腸を使用している、いずれにしても排便の有無確認(主事医支持の下)浣腸の実施など確実にやっていかなくてはいけない。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後に口腔ケアを実施している。協力歯科医院の往診も多くあり、利用者様のみならず、職員も口腔ケアにかんして相談を行っている。	○	歯磨き、うがい、一連の動作を自ら行われる方に対して磨き残しの確認や口腔内観察ももっと行って行きたいと思っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量、栄養バランスは系列法人の管理栄養士が主となり厨房にて管理されている。水分量もこまめに言葉かけを行い促している。食事水分摂取量、は都度記録し状態がわかるようにしている。	○	水分量が不足しがちな方もおられる状況であり、関係者と話し合い改善へ努めている。水分制限の方もおられ主治医の指示に従っている、特に夏季は脱水症状等へ留意し水分摂取を大事にしていきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染対策委員会を設置し、併設施設と連携し月に一回はミーティングを実施している他主治医からも適宜指導あり感染症に関する法人内講習も開かれている。	○	インフルエンザ・ノロウイルス等急変に感染拡大を招くものは特に危機意識を持ち予防に努めて行かなければと思う。新型インフルエンザにおいては、床のハイター消毒うがい手洗い、職員面会者のマスク着用等を主治医のもとでおこなう。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	冷蔵庫内のチェック(施設・個人共に)家族様からの差し入れに際しても確認(場合により管理)をお願いする。他調理器具も使用後は速やかに洗浄消毒するなど食中毒予防に努めている。	○	畑でとれた野菜を調理したり月一度調理レクレーションを行っているが、衛生面・安全面を第一にし取り組んで生きたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は雨天時を除き全開しており誰でも自由に出入りできるようにしている。正門も開放開放しておりまわりの花壇には花を咲かせ、畑には野菜を植家庭的な自然とのふれあいを感じるよう工夫している。	○	玄関前のスペースを利用してテーブル椅子を置き日光浴・お茶会・レクレーション・地域の方との交流の場にもしている(保育所の子供たち等)もっと親しみのある出入りのできる場へと願う。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関今には季節の花などを生けたりし季節感や生活感を出すよう工夫しているが浴室やトイレ等では介護施設感が出ている所が多いのが現状である。	○	浴室やトイレ等をもう少し工夫を重ね普通の家のような生活感を取り入れていけたらと思う。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーや椅子の配置に配慮し独りになる場所が居室だけにならないよう工夫したり、気の合う利用者様同士が集まりやすいよう工夫している。	○	現在畳を使用している所がないので少し横になりたい利用者様が自然と横になれるような空間作りを進めて行きたいと思う。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具等の持ち込みは少ないが小物類に関しては家人様に持ち込んでいただくか本人様と共に買い物に出かけ選んでいただくよう努めている。	○	大きな家具が難しい現状の中でも出来る限り、使い慣れたものの持込や好みの物の持込の声かけをしっかりと行っていきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	出来る限り、自然の空気を取り入れるように努め個別の要望にもその都度対応している。	○	温度差を感じにくくなっている入居者様や訴えをなかなか口に出せない利用者にもしっかりと声かけを行い訴えや要望に応えられるように努めたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下トイレは多くの手すりが設置してありホーム内に段差は無く安全に移動する事が可能、床も転等時のダメージを和らげるようになっている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	食堂では物の位置等で混乱される入居者様もおられ、自立して暮らせる状況ではないのが現状である。	○	入居者様一人一人が自立に向けて生活できるような環境作りをくふうしたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	居室前のスペースは入居者様の庭として花を育てられたり、草抜きをされたり好みに合った使い方をお勧めしている、リビングに続くウッドデッキには犬を飼っており皆さん可愛がっておられる。	○	季節ごとにそれぞれのベランダに草花が咲き、季節をさらに感じて頂けるよう活用していきたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
		○	③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
		○	②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

私をはじめスタッフ一同は、認知症の方への対応等はまだまだ勉強不足で入居者様に満足して頂けないと思います。そのような中でアピールできる点とえば、自然に囲まれたホームであり、庭・畑そして鯉の泳ぐ池等があることです。近くの野山では季節毎に山菜も採れ四季を感じる事が出来ます、畑には入居者様と作った野菜があり、皆で収穫を喜んで頂いております。中庭の鯉のエサやりやホームで飼っている犬のエサやりを入居者様がされ、生き物とのふれあいもあります。又近くに花回廊があり、季節毎の花を楽しんで頂いております。立地条件はとても良いと思います、これを十分活かしてゆくようスタッフ一同頑張っていきたいと考えています。